



伝統の石がま漁で寒ブナを捕獲する住民ら＝1日、鳥取市三津の湖山池西岸

コツコツと 魚追う音響く

石がま漁3年ぶり復活

鳥取・湖山池

江戸時代から伝わる漁法で、県無形民俗文化財に指定されている「石がま漁」が1日、鳥取市三津の湖山池で3年ぶりに復活した。地元住民らが協力して伝統漁に励み、石釜を突き続けて魚を追い込み、捕らえていった。

石がま漁は300年以上、石にフジツボが繁殖するなどして2年間漁を中断。昨年8月から「石釜保存会」メンバーらが釜の補修を進め3基で復活させた。魚が岩陰などに隠れて越冬する習性を利用。石釜の内部に魚の通り道と捕獲装置の「胴函」を設置し、水中の塩分濃度が上昇

し、石にフジツボが繁殖するなどして2年間漁を中断。昨年8月から「石釜保存会」メンバーらが釜の補修を進め3基で復活させた。魚が岩陰などに隠れて越冬する習性を利用。石釜の内部に魚の通り道と捕獲装置の「胴函」を設置し、松

製の棒で突き続け、振動や音で魚を追い込んだ。本来は7、8時間突き続けて300kgの水揚げがあるというが、この日は悪天候で3時間程度。それでも住民ら30人が魚を逃がさないよう、休むことなく突き続けて寒ブナを捕獲した。保存会の田中一幸会長は「久しぶりに漁ができた。（この漁を）大事な財産として地域全体で守り残していきたい」と話していた。